

令和4（2022）年度
自己評価報告書

令和5（2023）年10月

社会福祉法人尾道さつき会
尾道福祉専門学校

1. 教育方針

地域社会から親しまれ支えられ、地域に貢献できる専門学校として次の方針を基本とする。

(1) 教育内容の充実

介護福祉に関する専門的な知識・技術を教授し、介護福祉士の資格取得可能な学生を養成する。

(2) 介護現場に即した人材の育成

福祉現場が直面している課題を反映した教育内容や介護職員の声を生かした教育を実施する。

(3) 福祉動向の把握及び理解

関係機関との連携を深め、施策の動向を収集することで、最先端の介護現場にも通用する学習内容を編成し、高齢者及び障害者福祉の向上に寄与できる学生を育成する。

(4) 地域貢献

地域や事業所の行事あるいは活動に参加する特別活動を充実し、社会性や自主性を育むとともに地域へ貢献できる学生を育成する。また、開かれた学校として施設を活用した住民の諸活動を支援して、地域福祉力の育成やコミュニティの活性化に貢献する。

2. 学校の教育目標

高校生及び社会人に選ばれる介護福祉士養成校を目指し、教育内容を見直すほか、本校の特色を積極的にアピールするため広報戦略を強化する。また、介護福祉士実務者研修等の資格取得支援の研修を開催し、広島県東部における介護職員養成の中心的な役割を果たす。

3. 重点目標

(1) 魅力ある学校づくり

- ・授業やボランティア活動、介護実習等で法人内事業所と連携を図り、現場に即した学生を協働して育てる体制を作る。
- ・介護福祉士の国家資格取得の他に、学生にとって魅力的な授業を提供するため多様な選択講座等について研究する。

(2) 入学生の確保による経営の安定化

- ・学校の特色や介護の魅力をわかりやすく伝えるため、パンフレットの内容を見直す。
- ・入学生確保の入り口となる体験入学の開催数を確保し、多彩な企画や丁寧な開催案内で、参加者数延べ50名を目標にする。
- ・令和4年度入学者数の目標を25名(委託訓練10名含む)とする。(実数38名、この内委託生10名)

(3) その他

- ・介護福祉士実務者研修、痰の吸引等研修を継続実施する。
- ・外国人の入学に対して、受け入れ態勢の整備を行う。(ベトナム人2名2022.3卒業)

4. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不適切…2、不適切…1			
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4	③	2	1
・学校における職業教育の特色はあるか	4	③	2	1
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	③	2	1
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に 周知されているか	4	③	2	1
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	③	2	1

① 現状

社会福祉法人尾道さつき会の学校運営の理念は「地域に親しまれ、支えられるとともに、地域に貢献できる専門学校づくり」であり、以下の目的が設定されている。

教育内容の充実

介護福祉に関する専門的な知識・技術を教授し、介護福祉士の取得が可能な学生を育成

介護現場に即した人材の育成

福祉現場が直面している課題を反映した教育内容や、介護職員の声を生かした教育を実施

福祉動向の把握及び理解

関係機関との連携を深め、早期に施策の動向を収集することで、福祉の実情を反映した学習内容を編成し、高齢者及び障害者福祉の向上に寄与できる学生を育成

地域貢献

地域や事業所の行事あるいは活動に参加する特別活動を充実し、社会性や自主性を育むとともに、県東部の唯一の専門学校として地域に貢献できる学生を育成

② 課題

地域包括ケアに貢献できる介護福祉士が求められている。住み慣れた地域でその人らしく生きることを支える支援や、医療的ケアも含む重度の利用者を支える支援が求められている。施設の見学や体験、現場実習を通してこれにきちんと対応できるマネジメント能力やリーダーシップ力を養う介護福祉士教育としてさらに見直していくことが必要と考える。また、現場との連携について、コロナ禍においても実施できる方法や対策を模索していく必要がある。

(2) 学校運営

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3 やや不適切… 2、不適切… 1			
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	③	2	1
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4	③	2	1
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	③	2	1
・人事、給与に関する規程等は整備されているか	④	3	2	1
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4	③	2	1
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④	3	2	1
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4	③	2	1
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	③	2	1

① 現状

運営方針、事業計画については、毎年教職員間で協議を行ったうえで策定し、理事会に提出している。学校の運営については、教職員は校務分掌で役割を明確にし、実施している。協議事項は毎月2回開催している教職員会議等で十分協議したうえで、決定事項として情報の共有化も図っている。教育活動については当校のホームページ等により情報公開に努めている。

② 課題

学校の健全経営については、昨年より入学生の増加傾向にあるが、TikTok・インスタグラムから授業の様子が身近に感じられるように情報発信を継続していくとともに、オープンキャンパスなどの広報につながる発信を継続する。

③ 特記事項

学生数は前年度と比較して増加している。介護人材の確保は国や自治体にとっても大きな課題であり、養成校として、行政や他機関と介護人材確保に向けた取り組みを実施していく。学校運営について、学校の努力はいうまでもないが、法人全体や関連分野、また自治体との連携が必要である。

(3) 教育活動

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3 やや不適切… 2、不適切… 1
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④ 3 2 1
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④ 3 2 1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④ 3 2 1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4 ③ 2 1
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4 ③ 2 1
・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	④ 3 2 1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	④ 3 2 1
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4 ③ 2 1
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④ 3 2 1
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④ 3 2 1
・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4 ③ 2 1
・関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4 ③ 2 1
・職員的能力開発のための研修等が行われているか	4 ③ 2 1

① 現状

介護実習においては、新型コロナウイルス感染症拡大のため実習延期や受入取り消しがあり、2年生の実習期間を7/28～10/27までの長期間設定に変更し、実習が修了できるよう整えた。それでもこの間での実習では修了できない学生が7名あり、3月に補充実習を追加し、修了することができた。

1年生は、認知症サポーター養成講座とおのみち見守り訓練を授業で行い、尾道市社会福祉協議会、キャラバンメイト、尾道市地域包括支援センターなどの職員に講師となっただき、実践的な学びの機会を得たほか、動画制作会社によるSNS運用についての授業や花王による身だしなみ講座など、異業種の方との接点をもって活動を行った。

11月11日は介護の日のイベントとして、介護福祉士会の方に介護の本質や介護福祉士の役割について話をしてくださり、福祉協会の方々から現在注目されるICTをはじめ多くの福祉用具の紹介を受けた。

② 課題

今後も地域や関連機関の方々との連携を進め、教育活動に加わっていただけるようにする。

③ 特記事項

特になし

(4) 学修成果

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3 やや不適切… 2、不適切… 1
・就職率の向上が図られているか	④ 3 2 1
・資格取得率の向上が図られているか	④ 3 2 1
・退学率の低減が図られているか	4 3 ② 1
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4 ③ 2 1
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4 ③ 2 1

① 現状

就職希望者は、全員福祉施設に就職している。国試受験 28 名全員が合格した。

令和 4 年度の退学者は 11 名。内 2 名はコミュニケーションの困難さなどがあり、施設でボランティア経験を積みながら今後の進路を検討していたが、行政や関連機関と連携をとり休学を経ての退学となった。内 1 名は、結婚を機による転居、残り 8 名は就職等の進路変更が理由である。

② 課題

更に細やかな対応を行いつつ、退学防止対策について広く知識や情報を集める等、退学者、休学者の低減を図ることが喫緊の大きな課題である。

③ 特記事項

必要に応じて東広島発達障害支援センターや尾道市や福山市等の障害者支援センターとの連携を図る。また、1 年から 2 年への進級に進めるため、不認定科目によらず、進級できるように制度や体制を変更し整えていく。

(5) 学生支援

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3 やや不適切… 2、不適切… 1
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
・学生相談に関する体制は整備されているか	④ 3 2 1
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④ 3 2 1
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	4 ③ 2 1
・学生の生活環境への支援は行われているか	4 ③ 2 1
・保護者と適切に連携しているか	④ 3 2 1
・卒業生への支援体制はあるか	④ 3 2 1
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	④ 3 2 1
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4 ③ 2 1

① 現状

広島県の新型コロナウイルス感染症対策補助金を活用し、消耗品（ペーパータオルやアルコール消毒液等）を確実に備えることができた。また、実習前にはPCR検査を必須とし、明確な指標で対応した。

進路・就職に関する支援としては、2年次に進路指導の時間を設け、履歴書の書き方や模擬面接指導を行うほか、福祉の職場就職説明会を2回開催することで就労意欲向上や就職先選考についての助言指導の充実につながっている。

経済的な支援としては、広島県修学資金貸付や日本学生支援機構、また民間保険会社の奨学金に加え、本校独自の施設奨学金制度を設けている。これらの制度を活用しながらアルバイトをする学生も多く、学業に影響しないよう生活の見守りが必要である。

様々な課題を抱える学生が増加していることから、精神障害や発達障害などに対して、基本的な知識を習得する等理解を深めるために、法人内の作業療法士や発達障害に関わっている職員を招き研修会を行い、具体的な事例にアドバイスを受けた。

②課題

様々な課題を抱える学生に対して、保護者と協力して学生の生活全般を見守り、また学生の状況に応じた個別対応がより一層求められる。関係機関との連携も深めていく技術も必要である。

施設奨学生については、就職施設、学生や保護者、学校が早期から情報交換し、協力体制を整えていく必要がある。

③特記事項

特になし

(6) 教育環境

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3 やや不適切… 2、不適切… 1			
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④	3	2	1
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	③	2	1
・防災に対する体制は整備されているか	4	③	2	1

① 現状

新型コロナウイルスによる感染予防のためのオンライン授業の環境整備を進め、有線設備を確保し安定的な授業運営を実現した。これにより、介護福祉士養成施設協会学会や尾道市地域包括ケア連絡協議会研修・シンポジウムに学生もオンライン参加し、福祉や介護の現場の最前線の情報に触れ、専門職との意見交換を行うことが出来た。

施設整備については、介護実習室の拡張のため古い備え付け実習用トイレや台所等の設備を廃止したことで、広く動きやすい環境を整えた。また、隣り合った 203.204 教室の壁撤去工事を行い教室を拡張し、学生数が増える新年度に向けて準備を行った。来年度トイレの改修を行い、洋式トイレの温便座に工事を行った。

② 課題

普段からのメンテナンスや学生にも物品使用時の意識の向上、整理・清掃等において、SDGs の取り組みの一つとしても理解を深め、検討していく必要がある。また、光熱費の値上がり等を踏まえ、今後太陽光発電等の検討が必要となる。同時に、豪雨等災害による断水等への対応について検討が必要である。

③ 特記事項

防火訓練は消防署員の立会いの下で、学生、教職員で実施している。

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3 やや不適切… 2、不適切… 1
・学生募集活動は、適正に行われているか	4 ③ 2 1
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4 ③ 2 1
・学納金は妥当なものとなっているか	4 ③ 2 1

① 現状

2022年度、前年度は、新型コロナウイルスの感染が広がり、ガイダンスやオープンキャンパスなどでの高校生との出会いの場も縮小傾向は続いてきたが、5月のオープンキャンパスの参加者は13名その他保護者5名であった。

6/22に総合技術高校保護者の見学会を実施した。入学してからの魅力が伝わるように、保護者には、奨学金等の金銭面での情報が分かりやすく伝わるように工夫した。

学校パンフレットは、学校カリキュラム・学生生活・サークル活動等、教員間で見直し、わかりやすく読みやすい内容に変更している。さらに本校独自の魅力ある情報・奨学制度等、詳細を掲載した内容についてもパンフレット及びホームページ等でも周知に努めている。また、教育成果として就職率100%であることもパンフレットで伝えている。

学校パンフレットを活用し、校内ガイダンス等に積極的に出向き、学校の魅力を伝えていく取り組みを行っている。オープンキャンパス等で来校する学生数の増加を図るように努めている。

② 課題

これまで以上に、在校生・卒業生・現場職員の現状を盛り込んだ内容で、業界全体の状況も伝え募集活動が実施できるように計画していく。今後も学生募集エリアの拡大、募集方法の検討を行う。特に福山福祉専門学校の閉校にともない、福山方面の周知を徹底していく。

経済的困難、精神疾患をもつ学生の状況、家族の状況等複数の課題を抱える学生に対して、修学に向けた環境作り等、個々の支援を行う。

③ 特記事項

特になし

(8) 財務

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3 やや不適切… 2、不適切… 1
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4 3 ② 1
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4 3 ② 1
・財務について会計監査が適正に行われているか	4 ③ 2 1
・財務情報公開の体制整備はできているか	4 ③ 2 1

① 現状

2022年度の入学者数38名（2名の休学者を含めると1年生は40名である。）財務状況は上向きとなった。一方で、年度途中の退学者もあり、財務状況は今後も楽観できない。介護職のイメージアップを図りながら、現役高校生の入学者を獲得するための努力がさらに必要である。

② 課題

効果的な広報活動を再検討し、高校生が関心を持つきっかけづくりに取り組む必要がある。また引き続き外国人留学生の入学に向けて受け入れ態勢等の整備を行う。

法人・施設等との一体的経営の強化を実現し、経費削減に向けた、見直しが必要である。

③ 特記事項

特になし

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3 やや不適切… 2、不適切… 1			
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	③	2	1
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4	③	2	1
・自己評価結果を公開しているか	4	③	2	1

① 現状

専修学校設置基準等を遵守し、適正に運営するよう努めている。変更があった場合は適宜変更届を提出している。また、個人情報の保護については学生から誓約書を取り遵守するよう努めている。

自己評価については、学生アンケートなどを実施しながら振り返りをして、改善を心がけてきた他、この形式での自己評価からの課題について解決にむけて取り組みを始めている。

② 課題

自己評価結果をホームページで早急に公開する。学生個々にも、インスタグラム等への写真アップなど

適正な情報発信に努めるように啓発してく。

③ 特記事項

法令順守については、法人も強いコンプライアンスの意識を持っており、学校でも常に意識化するよう努めている。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3 やや不適切… 2、不適切… 1
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4 ③ 2 1
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4 ③ 2 1
・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4 ③ 2 1

① 現状

2022. 6 月に広島県地域医療介護総合確保事業における「介護施設等における ICT 定着促進事業」のうち「ICT・介護ロボット導入支援研修」の補助金を受けて、広島県介護福祉士養成施設協会が実施した、オンライン研修・シンポジウムと ICT・介護ロボット体験相談会を県西部の介護福祉士養成校と本校で同時開催を行った。

昨年に続き、新型コロナウイルスによる感染予防のため地域とのつながりが減少した状況であった。学生のボランティア活動の支援としては、山手地区にある一人暮らし高齢者宅を訪問しての資源ごみ回収は継続し、地域の特性やそこに暮らされている方々の生活を支える一助になるように努めた。

地域に対する研修としては、尾道市との災害協定、介護職員実務者研修を実施しているが、更には地域に団体等と関係性を強め、協働で研修等を実施する等の取り組みを開始した。

② 課題

コロナ禍においても学校の資源活用や施設の地域貢献について、その在り方を模索していく。そのためにも、地域にある団体や組織と関係性を強めて地域のニーズに応える準備を行う必要がある。

尾道市及び周辺地域での社会貢献活動や地域貢献活動の機会を通して介護職のイメージアップを図り、学生募集につながるように、積極的な地域行事への参加を継続して行く。

③ 特記事項

広島県実習指導者講習会、広島県介護支援専門員法定研修、尾道市介護支援専門員連絡協議会及び尾道市地域包括ケア連絡協議会の研修に関わっている。